

東京学芸大学 探究プロジェクト

ツールキット 【国語】編



大分県教育委員会

0 はじめに


大分県教育委員会では毎年、「指導教諭をリーダーとしたチームによる授業改善の推進」という取組をおこなっており、各教科指導教諭1名を中心として、若手～中堅教員3～4名（推進委員）、県教育センター指導主事、高校教育課指導主事をメンバーとした推進チームを作り、授業研究会を中心として授業改善を図ってきました。

今回、東京学芸大学と「探究プロジェクト」で連携するに当たり、この取組とリンクさせ、推進委員の中から代表として1名に「探究プロジェクト」に係る公開授業を行うこととしました。

0 はじめに

探究プロジェクト関係者

- 指導教諭をリーダーとした授業改善の推進委員
指導教諭1名
教諭3名
大分県教育センター指導主事1名
大分県教育委員会指導主事1名

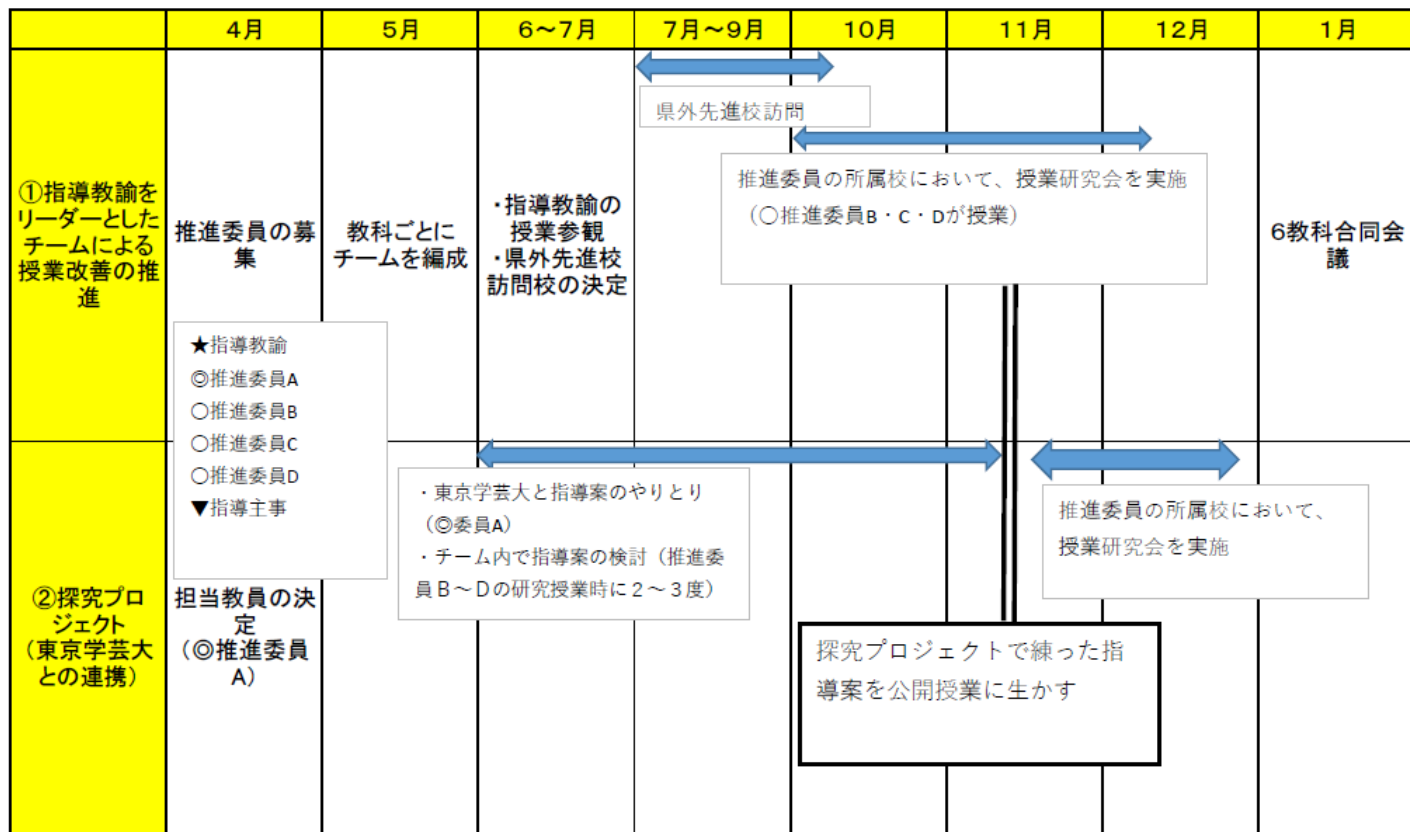


指導案検討
公開授業での助言

- 東京学芸大学
中村和弘 教授
- 教職員支援機構
次世代型教職員研修開発センター研修開発課
堀内貴臣 課長補佐
- 大分県内国語科指導教諭(8名)

0 はじめに


◎年間スケジュール概略




1 指導案検討について

◎指導案検討の流れ

R5.9.22 授業担当者による公開授業

- 
- ・授業担当者の平素の授業を見ることで、良い点や改善点を把握するとともに、学習者の現状を把握することが狙い。

R5.10.20 第1回指導案検討

- 
- ・推進委員は参集形式、その他の参加者（東京学芸大関係者、県内の指導教諭）はオンラインで参加。

R5.11.17 第2回指導案検討

- 
- ・第1回と同じ形式

R5.12.18 公開授業

1 指導案検討について

◎第1回指導案検討

〈授業者が構想した指導案〉

○第2学年「古典探究」

○単元名

「当時の人々の価値観・常識を基に「まばゆき人の御おぼえ」を理解する」(学習材:『源氏物語』)

○単元目標

「古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

「思考力、判断力、表現力等」(「読むこと」ク)

○言語活動

平安朝の価値観・常識について理解を深めるために、新聞記事の作成・批評をする。

〈参加者の意見〉

・「多面的・多角的な視点から作品を評価する」ためには、同時代の異なる作品を読み比べる必要があるのではないか。(第一案では学習材は一つであったため。)

・新聞記事作成という言語活動がその後に取り組む学習課題を考えるために必要なものになっているのか。

・新聞記事を作成する場合、新聞記事とはどのようなものかという共通理解が不十分なのではないか。

・学習課題が目標として設定されている資質・能力を育成するためのものとして適切でないのではないか。

1 指導案検討について

◎第2回指導案検討

〈授業者が構想した指導案〉

○第2学年「古典探究」

○単元名

「セリフの根拠についてワールドカフェ形式での話し合いを通して『桐壺巻』の主人公である桐壺更衣の心情に思いを馳せる」(学習材:『源氏物語』)

○単元目標

読むことにおいて、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(読むこと力)

○言語活動

桐壺更衣に仕えた一人になりきり、桐壺帝への返事を書くために、桐壺更衣のセリフについて、ワールドカフェ形式で意見交換する。

〈参加者の意見〉

・授業者が生徒につけたい力は「古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりする」(「読むこと」才)ではないか。

・今回の学習課題は答えが一つに収束していく発問であるため、ワールドカフェという活動は合わないのではないか。

・前回に比べ、生徒にどのような思考をさせたいかという点が明確になって良い。

2 授業の実際について

◎公開授業

〈授業者が構想した指導案〉

○第2学年「古典探究」

○単元名

「セリフの根拠について話し合うグループ活動を通して桐壺更衣の心情に思いを馳せる」

○単元目標

「読むことにおいて、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができる。（読むことオ）」

○言語活動

「桐壺更衣に仕えた一人になりきり、桐壺帝への返事を書くために、桐壺更衣のセリフについて、グループで意見交換する。」

○本時の目標

「本文の叙述を根拠に、「いとかく思ひたまへましかば」を含む桐壺更衣の最期のセリフを考え、表現することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕」

2 授業の実際について

◎公開授業

授業映像(編集版): <https://youtu.be/jrNVIXg9UqE>



3 研究協議について

◎研究協議(14:15~16:00)

○授業者の振り返り(5分)

○授業評価シートまとめ(10分)

○A・B・Cの3グループに分かれて協議(30分)

→グループごとに発表(10分)

○指導主事からの助言(10分)

3 研究協議について

○東京学芸大学中村教授からの助言(15分)

- ・探究といえど全て自由ではなく、授業者が学習者に対して考えさせる仕掛けがある「構成された探究」が大事。
- ・どこを話し合いなどで生徒に委ね、どこを授業者が絞ったり深めたりしていくかが重要。
- ・指導事項の(オ)について、新たな学びを学習者のどの知見とどう結びつけるのか、見通しが大事。
- ・学習活動を円滑に進める工夫と力を付けさせるためにどうアプローチするかは指導案では区別して記載すべき。

○教職員支援機構 堀内課長補佐からの助言(15分)

- ・古典はできあがったもの、完成されたものではなく、なぜ話し手はあの言葉を使っているのかなど、本文に立ち返らせ主体的に読ませるようにしたい。その際に授業者が何を言って何を言わないのか、考えておきたい。
- ・探究を意識するあまり、活動が中心となってしまうか。何ができるようになるか、をきちんと見据え、ことばにこだわる授業になっているか。
- ・授業研究は組織的な取組で行う。自校の点検。

4 振り返り

○チームとして設定したテーマ

- ・国語科における「探究的な学び」の実現
- ・指導案検討力の育成

○テーマ実践の総括

①実践が効果的に行われていた場面（工夫が見られた点）

- ・各授業者が、学習者の実態を踏まえた目標設定を行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現を意識した授業構想を行っていた。
- ・設定した資質・能力を育成するための「発問」と「言語活動」の工夫に焦点化した指導案検討会を実施することができた。
※A教諭1回、B教諭1回、C教諭2回

②実践を通して見えた課題

- ・国語科として育成したい「資質・能力」のイメージの共有が不十分。
- ・「探究的な問い」に対する評価の方法や基準が十分ではない。

○テーマ実践の総括

③県全体にさらなる授業改善を推進していくための取り組み

- ・指導教諭をはじめとした先進的な取り組みを行っている実践の情報共有や、各学校での優れた指導計画に関する情報共有。
- ・授業検討会当日だけでなく、各校での研究授業の指導案検討に指導教諭が参加するなど、指導案検討会の質の向上を目指した取組。
※対面で実施できない場合はZOOM等を活用して実施することも可能。

④来年度以降の授業改善テーマ・課題

- ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための発問の工夫
- ・「探究的な問い」と「問いに対応した評価の方法や具体的な評価規準作成」を目指した指導案検討力の育成